

▶8月2日の街頭キャンペーン



夏の事故ストップへ

交通安全団体が取り組み強化

7月19日、午前5時53分頃、草野地内の県道原町・川俣線で発生した交通死亡事故を受けて、村交通安全対策協議会（会長村長）は7月22日に緊急会議を開催し、広報活動の強化等、花期の交通事故続発防止へ向けて取り組みを強化することを決議し、7月末までの早朝の広報活動と、8月2日に街頭キャンペーンを行い、交通安全を広く呼びかけました。

このうち、8月2日に公民館前の駐車場で原町警察署の協力を得て行われた街頭キャンペーンでは、交通安全協会、交通安全母の会、交通指導隊、そうま農協、そして飯館ライオンズクラブが参加し、県道を走るドライバーにチラシや風船を配って安全運転を呼びかけていました。

村の交通事故ゼロ記録は336日でストップしています。

飯館村消防団に新しい団旗

7月12日、役場において新しい村消防団の団旗交付式が行われ、村長から熊谷哲夫村消防団長に新しい団旗が手渡されました。

団旗を受け取った熊谷団長は「新しい団旗をい

ただき、感謝と感激でいっぱいです。今後はこの旗のもと一致団結して、予防消防始め各種活動に努力します」と防災への誓いを新たにしていました。

▼団旗を受けとる熊谷団長



こころのぼけっと

「会わせプランの重要性」

村では、今「男女共同参画プラン」と「少子化対策プラン」を一緒にした計画書を作っているところだ。

今、日本は高齢者対策以上に、少子化対策に力を入れなければ...という話を、以前、国の局長から聞きました。なぜかと言うと「子供が少くない」ということは、あと20年30年後に大変なことになるからです。つまり、子供が少ないと教育や年金に影響し、地域の活力や労働力の問題を起こし、ますます多くなる高齢者の対策にも大きな影を落としていくからです。

わが村でも「少子化対策」「子供の育てやすい環境」ということで、医療費の無料化（小学校入学前まで）や保育の充実を進めています。少子化対策の1番の基本となるものは、家庭や社会の「男女共同の社会づく

り」を進めていくことだと思っています。そのため、全国で初めて両プランを1つにした計画を作っているところなんです。

「男女共同参画社会」というと、「男も女も同じように」と勘違いして「男と女が同じじゃない」「男も女と同じことをしろ」と言うのか...という感じがする方が結構多いようです。「男だから」「女だから」と言う前に「人間として」「人の親として」という考え方に重きを置きましょうということなのです。つまり、「子供を育てやすい環境」をつくるには、当然「子供のことはお前に任せろ」ということではなく、男性も一緒に協力をしなければいけないということなのです。

村の将来のため、これまでの考えを少し変えてみようではありませんか。

平成14年7月29日

飯館村長 菅野 典雄